



【千葉】キミカ(東)社長、03・3548
 京都中央区、笠原文善
 ・1941)は、千葉

キミカ 異物混入避け安全確保

アルギン酸粉末 混合・包装 自動化ライン導入

プラント(千葉県富津市)でアルギン酸粉末の混合と包装の自動化ラインを導入した。投資額は3億7500万

円。異物の混入を避けるフードディフェンス(食品防衛)を強化する。健康志向の高まりで需要が増える天然由来のアルギン酸の安全性を確保する。生産能力も引き上げ、早期に売上高100億円(2020年12月期は86億円)を目指す。

混合器を従来の羽根で攪拌する仕様から空気で混合する方式に変更して清掃を容易にした。また、完成品の包装を自動化して異物の混入を防ぐ。フードディフェンスの強化に加え、自動化でアルギン酸の生産能力を従来比60%増の年間2000トに増強する。

今回自動化したラインだけで「国内のアルギン酸の年間総需要量を満たせる規模になった(笠原善太郎プロジェクト推進室長)という。近年、関心が高まっている代替肉への添加物としての需要増加にも対応する。

キミカはパンや麺など加工食品の食感を向上させる機能を持つアルギン酸を製造販売する。原料は天然の海藻で部位や種類で粘性や粗さなどが異なるため、顧客の用途に応じてブレンドする。